

外来分離のデメリットを克服しよう。

—理事長講演—

川崎幸クリニックは、平成10年9月にオープンし、本年で6年目を迎えました。その後狭山病院でも平成15年に分離を行いました。先行した川崎幸クリニック・川崎幸病院間では分離によるデメリットとでも呼ぶべき問題が生じています。そこで6周年を記念して行われた医師に対する理事長講演は、病診連携の発展という文脈からこの問題にスポットを当てて行われ、施設間の医師の連携を強化する必要があるとの主張がなされました。編集部では講演とその後の医師同志のディスカッションを要約して紹介する事にしました。

講演内容

- 川崎幸クリニックの分離は、保険点数上の有利さをねらったものでなく、患者数の増加により手狭になったスペース上の問題を解決する手段であった。その意味で昭和55年の川崎クリニック分離の延長線上にある。
- 分離は様々なメリットをもたらしたが、

現在そのマイナス面の克服が課題となっている。

- 川崎クリニック開設時からあった問題であるが、クリニックの患者を川崎幸病院に入院させようとする時スムーズに運ばない。同様の問題が今、川崎幸クリニックとの間でも起きている。
- 川崎幸病院の開業登録医師との共同指導の件数は、年間で狭山病院と比較すると



本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）



狭山 1,100に対し10と無いに等しい数字であり、もっと登録医との関係を深める活動をして欲しい。又、法人内の施設間の関係をスムーズにする事と同時に病院医師は営業に出て欲しい。特に外科系は開業医の先生との関係を作らないと患者は紹介されてこない。このような営業を通じて患者の紹介を得ると言う視点は川崎幸クリニック、鹿島田クリニック、川崎クリニック、川崎胃腸病院など法人内の施設に対しても持って欲しい。そうすれば、現在抱える問題点はあらかた片づくはずである。

以上の趣旨の講演がなされ、これを受けて会場の医師からの意見表明がされました。

川崎クリニック 宍戸院長

患者を紹介する立場から言えば患者にしっかりした医療を施していただくのは当然としてきちんとした返書をお願いしたい。又、川崎幸病院でどんな手術、

検査が出来るのか、十分な情報が無いためこれを提供して欲しい。

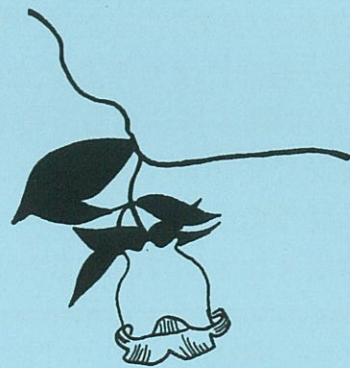
川崎幸クリニック 杉山孝博院長

普段の医療レベルを上げ、専門性を高める事はもちろん大事であるが、もう一面として地域の開業医師との面識を持ち、会合に出席したり、勉強会を行ったりしてなじみを作る事が大切。どんどん医師会に出て欲しい。又、法人内施設間の連携については合同医局会、合同業務連絡会などで交流を持つ必要がある。

川崎幸病院 岩井院長

川崎地区にこれだけの医師がいるのに、お互い顔が見えず、専門が分からない事が多い。これからはこの問題を解決したい。

以上の発言のほか、クリニックの医師から、昔と比べ最近川崎幸病院の敷居が高くなった印象があるとの指摘がありました。最後に、川崎地区の共有の医療資源として鹿島田クリニックの空きスペースをみんなで有効活用しようと言う事と、医師同士、お互いの顔が見えるよう経歴、専門などのデータベースを作成し公開しようという事が確認されました。



狭山病院が地域医療支援病院に!!

石心会狭山病院 地域医療連携室長 田中 利明

〈埼玉県の地域医療支援病院承認状況〉

平成16年7月28日、狭山病院が地域医療支援病院に承認されました。埼玉県には約320病院があります。その中で大宮医師会市民病院、埼玉県小児医療センター、東松山医師会病院、北里研究所メディカルセンター病院の4病院が既に承認され、今回、狭山病院が5番目となります。また医療法人としては最初の承認となりました。

〈地域医療支援病院とは—その承認要件—〉

- ・他の医療機関から紹介された患者さんに対し診療を(紹介率80%以上)行なうこと。
 - ・他の診療所等の医師が当院の入院ベッド、医療機器を共同利用できること。
 - ・救急医療の提供をおこなっていること。地域の医療従事者の資質向上をはかる為、研修等の体制が整備されていること。
 - ・原則200床以上であること。
 - ・集中治療室等の構造設備を有すること。
- 地域医療に取り組む中で上記の事を行なっ

きました、今回はその実績が認められたと考えています。

〈今後の歩み〉

当院では、平成8年1月より開放型病院の承認を受け、かかりつけ医を支援し適切な役割分担と連携を目指してきました。開放型病院の共同指導をすすめ、開業医の先生方のお陰で年間千人を超える患者さんの協同指導を一緒に行えるようになりました。そして入院や特殊な検査の委託を当院が引き受けています。患者さんが希望する医療を地域の中で行えるように、医療の連携をより広く、そして深く行い地域医療の充実に努めてまいります。今回の承認により診療報酬の加算増収が年間約1億円になり、これを医療の充実に当てることが出来ます。これからも、さらに質の良い医療を提供できるよう職員一同取り組んでいきたいと思ひます。

★トピックス①

川崎幸病院、緊急防災ヘリコプターによる患者搬送

【経過】

急性大動脈(I型)解離の患者さんが、伊豆長岡ヘリポートから搬送される。

10:00 伊豆長岡ヘリポートから、急変処置後離陸。

10:50 川崎市消防局屋上ヘリポート着

11:10 川崎幸病院着、手術室へ直行。

今後はこのようなケースが増えるでしょう。





〈9月14日川崎消防局ヘリポート〉



〈川崎幸病院まで鎌田医師同乗〉

税 務 調 査 報 告

本部管理部 部長：高田 三成 経理課長：菅 直人

去る9月13日から5日間、過去3年間の税務調査が行われました。税務当局とは収益の計上時期について見解に相違があり、紛糾しましたが、荒岡副部長、佐藤課長のご協力の下、その場を収めることができました。税務当局が問題視した項目について、報告いたします。

①「継続的な取引が行われる場合の取引契約書の締結」

医療材料の仕入は、昨年より直接取引に移行したことにより、基本契約の締結が完了していません。税務当局からすれば、過大な仕入となっていないかを疑いますので、基本契約どおりの取引であることを証明する必要があります。

②「建物賃貸借物件の管理、不必要となった場合の早期処理及び賃料が相場より高いものの改正」

空いた職員寮、厚生施設、倉庫等のあまり使われない賃貸物件や相場が下がっている為、相対的に高くなった家賃は経費に認められず改善が必要です。

③「治験」に関する承認・通知・入金・出金の管理が必要です。

④「仮払金の長期未清算」

貸付金と認定された場合、受取利息を計上し収入を増加させることとなり、また長期の仮払金は回収も困難となることから、税務上も含め問題です。仮払金は早急に清算、回収の必要があります。

⑤「旅費交通費(頻繁な特定地域への出張)」

一般論として、空出張と疑念をもたれることが多く、業務日誌などで、出張時の行動を記録し、更に領収書等を残しておくことが必要です。

結び

税務調査で調査官が疑いの眼を持っているのは「売上の計上漏れ」と「経費の水増し」です。上記の事項はまさにその観点で指摘されましたが、故意の脱税はもちろんありませんし、帳票の不備による追徴税も極めて軽微な金額で終わりました。今後は痛くも無い腹を探られる事にならないよう、正しい記帳と証拠書類をそろえると言う正しい会計処理を徹底させねばなりません。交通費・会議費・仮払いの清算時には根拠となる領収書などの添付漏れがないように、また、復命書、日誌等の記録をしてください。仮払いの際は、その目的が終了次第、速やかに清算していただくようお願いします。

【学問のすすめ】

第35回日本看護学会－成人看護Ⅱ－（佐賀）

患者・看護師双方にエゴグラムを実施した 糖尿病教育入院への試み

石心会狭山病院 4階南病棟 三ツ木千明、中村保子、近藤圭子

【エゴグラムとは】

交流分析の理論に基づき開発されたもので個人のパーソナリティの各自我状態同士の関係と、外部に放出している心的エネルギーの量を評価し、それを棒グラフで表したものである。※自我状態とは……感情及び思考、さらにはそれらに関連した一連の行動様式を総合したひとつのシステム

人はみな3つの自我状態を持っているものとされ、それらの自我状態はさらに5つに区分される。エゴグラムはこの5つの自我状態を視覚的に把握できるようにしたものである。（4階南病棟/中村保子）

去る8月26～27日、佐賀県にて第35回日本看護学会－成人看護Ⅱ－が開催され、幸いにも示説形式（発表内容をポスターに掲示し、発表者と参加者が共にそのポスターを見ながら研究発表を行なう方法）での発表の機会を得ましたのでご報告致します。

発表は第1日目の第1群ということで、緊張する暇もなく朝から掲示準備に追われ、息つく間もなく発表となりました。発表後の質疑応答では、1mと離れていない所からの矢継ぎ早の質問が多数あり、その内容も多岐にわたり充実したものでした。

1. はじめに

当病棟では年間約40名の糖尿病教育入院患者を受け入れていますが、2週間の

教育入院を終え外来通院となった後、血糖コントロール不良となって再度入院してくる患者も少なくありません。生活習慣病といわれている糖尿病は、一生治療を継続していかなければならない慢性疾患のため、患者自身が治療に関与し生活を管理していく必要があります。その生活管理には患者自身の性格が強く影響するのではないかと考え、患者にエゴグラムを実施しました。そしてその性格傾向を患者自身にフィードバックすることで、患者自身の自己理解が深まり考え方の変化・行動の変容が生じるのではないかと考えました。さらに教育には患者・看護師双方の関係形成が重要であり、患者だけでなく看護師もエゴグラムを実施し、自己理解を深め患者対応することで患者－看護師関係、患者教育に有効であったのか検討することとしました。

2. 方法

糖尿病教育入院患者・看護師を対象にエゴグラムとアンケートを実施

3. 結果

K氏…入院時BS200・HbA1c 8.5%「今までの生活が悪かった。仕方がない」1ヶ月後BS88・HbA1c 5.4%「頑張って糖尿病を克服していこう」「自分の健康に気を付けるようになった」

M氏…退院後アンケート（糖尿病と付き合っていくことに対して）「できると思う」

「自分次第」「自分の健康に気を付けるようになった」

看護師…「患者の言葉に耳を傾けるよう意識した。」「悪い所にあがった点を改めて自分自身考え直し、そうならないよう気を付けながら対応するようにした。」

4. 考察

① 糖尿病教育は集団指導のみならずエゴグラムを使用することで、個人の性格傾向を把握して個別に対応することができ、患者の行動や考え方の変容を促すきっかけとなる。

② エゴグラムにより患者の性格傾向を知ることで、看護師自身が対応を変化させていることや、患者への対応のしやすさを感じている。

③ 看護師はふだん意識せずにいた自らの性格傾向を客観的に見つめ直せたため、患者に対する言動や対応に変化が見られた。

5. 結論

患者にとって糖尿病についての知識や血糖チェック・インスリン手技等、技術の取得は必要不可欠ですが、治療・生活管理を継続していこうという動機付けも大切です。教育入院において効果的な指導・継続への動機付けを行なうためには、集団指導のみならずエゴグラムを用いて性格傾向を把握し、個別対応することで患者の行動や考え方の変容を促すことになるのではないかと考えます。またエゴグラムは患者自身が自己を客観視することで、過去の生活を振り返り生活態度を修正し、糖尿病と上手に付き合い克服していこうという気持ちを持たせる手段のひとつになるのではないかと考えます。看護師側にとっては患者の客観的性格傾向を知ることで、自らの患者に対する主観的見方を修正することができ、患者

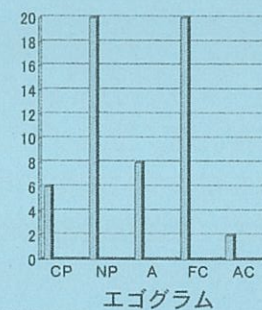
との関係を築いていく上で患者に対しての思い込みや偏見に気づき、患者理解を深める一助となるほか、看護師自身も自らの性格傾向を客観視し自己内省的作業を行なうことで、患者に対する態度の変化や患者理解の充実をもたらし、患者指導をする上でアプローチの方法を変化させることができるのではないかと考えました。また、エゴグラムは人間関係の質や自己及び相互理解といった点から、病棟での援助活動において有用であるため、自らを見つめなおす契機として定期的に実施していくことが望ましいのではないかと考えます。

K氏(41才 男性)

☆エゴグラムの結果

良いところ

- ・人に優しく世話好き
 - ・面倒見が良い
 - ・はしゃいで楽しむ
 - ・面白いと好感を持たれる
- 悪いところ
- ・社会のルールや規則を無視する
 - ・気分のおもむくままに突っ走るので注意を要する



K氏の糖尿病に対する思い

☆入院当日

「今までの生活のしかたが悪かった。仕方ない。」

空腹時血糖 200
HbA1c 8.5%

☆退院前日

「頑張って糖尿病を克服していこう」

☆退院後1ヶ月

「自分の健康に気をつけるようになった」

「人間関係に影響がある」

空腹時血糖 88
HbA1c 5.4%

M氏(61才 女性)

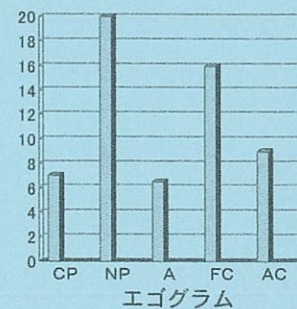
☆エゴグラムの結果

良いところ

- ・人に温かく接する
- ・人の気持ちを理解する
- ・世話を焼く

悪いところ

- ・過保護
- ・お節介にならないように注意する必要がある



《趣味探訪》

Run Run Run !

川崎幸病院 医師招聘担当 山本 裕子

●長距離走との出会い

小学1～5年までリレーの選手で短距離走は大好きでした。でも長距離走は1番になれずがっかりした上に疲れるので好きではありませんでした。高校の3年間、授業のマラソン大会を全て欠席しました。それくらい嫌でした。そんな私が今は月間250km走っているとは……。

走ろうと思ったのは高3の夏休み前です。少しポチャッとしてると思ったのがきっかけでした。夏休み、毎日40分、汗を出そうと服を7枚着込み夕食の後走りました。

兎に角走りました。雨でも傘をさして走りました。(今思うとかなり異常です。)甘いものは1日1個に絞りその結果は40日後マイナス7kgでした。40日間走り通し、甘いものを制限でき、目的以上の減量が出来、大きな達成感を味わいました。この感激が以降の大きな原動力になりました。

●トライアスリートデビュー

私は幼い頃からアレルギー体質で体質改善の為、水泳を始めました。大学1年の時に3kmを1時間のゆっくりしたペースから始め、週に5回プールに通うようになりました。そこでとても素晴らしい？出会いがあったのです。そう神奈川県トライアスロン協会の副理事長の方に出会ってしまったのです。『トライアスロンって知っている？やってみない？自転車にも乗って見たら？』と誘われました。以来、土日の早朝ランニングのお誘いコールを受け、一緒に走り、1時間走った後に家で食事をし、さらに区民プールで再会し泳ぎました。自転車はあまり好きではなかったのですが、行くときは三浦半島一週というコースがあり1回に大体100km乗りました。そして26才でトライアスリートとしてデビュー。初レースは相模原の米軍基地内でのレースでした。女性の参加者は約100人で確か12位だったでしょうか。(写真参照)それから小さい大会では年代別で何度かお立ち台にあがる事も出来ました。が……。

●趣味のランニング そして手料理とチェロと

6年前、あるレースの翌朝、腕が動かなくて目がさめました。レースに向けて弱点の自転車に乗りすぎ、かなり首にストレスがかかって頸椎の椎間板ヘルニアになって





しました。それをきっかけにトライアスロンを引退しレースを止め今はジョギングと料理、チェロの演奏を楽しんでいます。

まず、ジョギングですが、平日は1時間くらい家の近辺を走ります。仕事の帰宅時間が10時を過ぎなければ殆ど『取りあえず、走ってきますか〜。』と独り言。土日のランニングコースメニューは2つ。家(横浜市、洋光台)から八景島まで片道7.5kmを往復1時間半と家から鎌倉まで片道8kmを往復1時間半強です。時々調子がよいと以前トライアスロンをやっていた時にトレーニングに使っていたコースを走ります。家→円海山→天園→瑞泉寺→鎌倉駅を越え1kmほど走ると目の前に由比ヶ浜の海岸が開けてきます。トライアスロンをやっていた時は無意識に走っていた

のに今は兎に角海岸線に出てからがとても楽しいです。湘南海岸は地元のRunnerも多く、また犬を散歩させている素敵な人を見かけます。(何故か、海岸線を犬を連れて散歩している姿って素敵に見えるんですよ〜)。デートしているカップル、サーフボードを抱えて海に出ようとしている人と本当に様々な人がいて結構そんな人たちを見ながら江ノ島まで片道19kmのコースを楽しんでいます。海岸線ではすれ違う人たちが時として応援してくれ、ベビーカーに乗っている小さな子までが手を振ってくれる事があり、そんな時はますます良い気分になって走りつづけます。レースをやっていた時の習慣で炎天下を走る事も結構多く、真黒に日焼けしますが「日焼けはスポーツウーマンの勲章」と自分に言い聞かせ、シミの恐怖を振り払いつつ走っています。トライアスロンをやらなくなってからは時間にもかなり余裕が出来て、休日は時々近所に住む両親に手料理の差し入れをします。幼い頃から母と一緒に料理やパンを作っていたので料理は大好き。美味しいと言われる喜びと共に母が料理作りから開放され食事を楽しむ姿がとっても嬉しく達成感以上のものを感じています。

トライアスロンの後の空白はそれだけではまだまだ埋まりません、それだけ大きなエネルギーを使っていたのでしょう。6年前念願のチェロを購入しました。高校までピアノを弾いていましたが実は弦楽器にかなり憧れがありました。どうしても演奏したかったのです、では何故チェロなのか？そうです、実は、ヨーヨーマの大ファンなのです。ヨーヨーマの音楽、暖かい人柄、演奏態度。ライフスタイルの全てに強く惹かれているのです。

週末には海までランニング、帰ったら美味しいビールでも飲みながら手料理を食べ、ヨーヨーマを聴いたり楽器を演奏する。このように、休みの日も又充実感一杯の私ですが、そんな私のライフスタイルを理解し、やさしいまなざしで見守ってくれる、そんな素敵な伴侶がどこかにいないものか。それが目下の私の悩みなのです。



さやま総合クリニック ヘルシーコンサート

■各回とも満員、大好評でした。

- ・ 7/10 ヘルシーソロコンサート 『音楽の父』に想いを寄せて〜 ピアノ：阿蘇博子
☆バッハ「プレリュード」、「フランス組曲」等
- ・ 7/17 ヘルシージョイナス 『今日は皆様が演奏家』〜体験！ヴァイオリン・ヴィオラ〜
指導：岩間俊也、鎌田浩史
- ・ 7/24 ヘルシーデュオコンサート『くるみ割り人形組曲』ピアノ：片桐みどり鈴木まりえ
☆チャイコフスキー「くるみ割り人形組曲」
- ・ 8/14 ヘルシーソロコンサート 『音楽の宝宝箱2』 ピアノ：片桐みどり
☆グリーク叙情小説集、シベリウス名曲集等
- ・ 8/21 ヘルシーフレッシュコンサート『歌ってさわやか』 ソプラノ：山下真代 ピアノ：近藤昇
☆竹久夢二「宵待草」、モーツァルト「春への憧れ」等
- ・ 8/28 ヘルシーデュオコンサート『情熱のジプシーヴァイオリン』ヴァイオリン：鎌田浩史 ピアノ：鈴木まりえ
☆チゴインエルワイゼン、チャールダッシュ等
- ・ 9/11 ヘルシーソロコンサート 『水のきらめき』 ピアノ：鈴木まりえ
☆リスト「泉のほとりで」、ドビュッシー「雨の庭」等
- ・ 9/18 ヘルシースタッフコンサート『クリニック医師・職員によるステージ』
・ 山南文香(前狭山病院研修医) ☆ベートーベン「月光ソナタ第3楽章」
・ 北田博夫(狭山病院婦人科医師) ☆グリーク「ワルツ」「過ぎ去った日々」
・ 山西晶子(狭山病院薬剤師) ☆ショパン「バラード第3番」ブラームス「2つのラブソディー」
- ・ 9/25 スタインウェイナイト 『曼珠沙華』 トニーストリングス
・ ヴァイオリン：鎌田浩史、村井薫 ・ ヴィオラ：岩間俊也 ・ チェロ：清野佳子
・ コントラバス：駒井朗 ・ ピアノ・シンセサイザー：近藤昇、片桐みどり
・ ヴォーカル：鈴木まりえ、鈴木弘美
☆チョンウォン「マイ・メモリー」 ☆A・メンケン「美女と野獣」 ☆S・バッハ「G線上のアリア」
☆近藤昇「曼珠沙華」 ☆J・ブラームス「ハンガリー舞曲1番」等

★トピックス②

【川崎幸病院】

- 7月2〜3日 日本病院学会
- 7月16日 第27回院内研修会が「MRSAの除菌と治療/血中ウィルス感染(針刺し事故対策)」(講師：ファイザー製薬/嘉津山哲司氏)をテーマに開催された。
- 7月24日 納涼祭
- 9月6,10日 禁煙講演 39名参加(喫煙者の35%相当)
- 9月11日 防災訓練
- 9月13日 川崎地区医師向け理事長講演
- 10月1日 敷地内全面禁煙施行
- 定例救急隊勉強会開催(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
8月17,24日 『緊急内視鏡が必要な疾患と治療について』(内視鏡科：渡部主任)
9月4日 『最近の当院に於ける心原性ショックを伴った心筋梗塞の症例』(循環器科：菊池医師)

【狭山病院】

● 接遇研修

- ・ 7月9,16,20日 CSと私達 (講師:行動開発研究所/長谷川慶子) 参加計321名
- ・ 8月3日 逝去時のマナー(講師:武蔵野さがみ典礼/寺尾彰二) 参加 72名

● 医療安全対策勉強会

- ・ 7月14日 保険会社から見た医療事故(講師:(株)損保ジャパン工藤純) 参加 106名
- ・ 9月13日 基礎 参加 35名

● 社会体験受け入れ 7月21～23日 川越市立大東西中学校 体験者 4名

● 7月24日 納涼祭

● 8月18日 本館5階改修工事開始

● 9月10日 院内感染対策勉強会『針刺し事故発生時の対応と防止対策』 参加 77名

● 9月11日 第1回来春卒看護師採用試験 受験 12名

● 病院機能評価訪問審査受審 9月28日～30日

● 狭山病院ヘルシーデリバリーコンサート 7月26日 8月16日 9月13日 ヘルシーコンサートに出演している演奏家の協力を頂き病院内にて昼のひと時にコンサートが実現しました。 参加各約60名

【川崎胃腸病院】

● 7月1日 生活保護法の指定

● 9月28日 1階ロビー、患者待合のリニューアルが完成しました

【さやま総合クリニック】

● 外来糖尿病教室

- | | | |
|-------------------------------------|------|------|
| ・ 第1回 「糖尿病とは」 | 7/6 | 9/7 |
| ・ 第2回 「合併症と日常の注意点、足の手入れについて、検査について」 | 7/14 | 9/15 |
| ・ 第3回 「薬物療法」「運動療法」 | 7/21 | 9/22 |
| ・ 第4回 「食事療法」 | 7/28 | 9/29 |

※各回4日で1講座です。また、8月は開催しておりません。

● 外来栄養教室

- ・ 7/22 『肝臓をいたわる食事』
- ・ 8/26 『腎臓を守るために』
- ・ 9/30 『糖尿病の方のおやつの上手なとり方』

● 健康教室

- ・ 第1回健康教室 8月21日『病院とクリニックの上手なかかり方』(講師:院長/市村三紀男)
※主催:患者サービス向上委員会

● 『つつじ(第3号/平成16年秋版)』9月28日発行

(内容) 1. タバコについて

2. 狭山病院、さやま総合クリニックの医療理念の統一について

3. 第2回患者アンケート集計結果報告

4. 狭山病院からのお知らせ(予約入院専用受付のオープン・リハビリテーションの充実)

5. さやま総合クリニックからのお知らせ(高齢者健診、各種健診の案内・健康教室開催)

● 平成16年9度狭山市高齢者健診開始

(期間) 9月1日～11月30日 (対象) 狭山市在住の昭和15年3月31日以前生まれの方

(内容) 問診、身体測定、尿検査、血液検査、胸部レントゲン検査、心電図検査、大腸がん検査、胃がん検査、眼底検査、肝炎ウイルス検査等

● 狭山病院病院機能評価訪問審査

1日目 9/28 事前打合せ・書類確認

2日目 9/29 合同面接・領域別面接・ケアプロセス・部署訪問

3日目 9/30 部署訪問・合議・全体評価

※2日目の9/29午後よりさやま総合クリニックへの訪問が行われました。

【川崎幸クリニック】

● 公開講座

- ・ 第65回 7/9「痴呆の理解」(講師:川崎幸クリニック院長/杉山孝博) 参加77名

※幸文化センターにて新川崎在支と合同開催

- ・ 第66回 8/30「糖尿病予防の食事療法」(講師:川崎幸クリニック管理栄養士/清水里子) 参加7名

- ・ 第67回 9/17「高血圧について」(講師:川崎幸クリニック内科部長/九島健二) 参加9名

● 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治

- ・ 7/15,23 参加計16名
- ・ 8/12,20 参加計22名
- ・ 9/15,24 参加計20名

● 食事の教室 管理栄養士 清水里子

- ・ 7/15 「ダイエットに兆戦②」 参加5名

- ・ 8/19 「夏バテ防止～アルコールの飲み方～」 参加5名

- ・ 9/22 「ヘルシー弁当の作り方」 参加15名

● 9月16日 消防訓練 参加45名

● 9月25日 院内研究発表会 78名参加(川崎幸病院11名、他2名)

ゴールデン杉山賞 放射線科

クリニカルフューチャー賞 リハビリテーション室

ベストスピーチ賞 検査室

ポイントオブビュー賞 患者サービス課クラーク

【鹿島田クリニック】

● 9月16日 透析ベッドを5床増床し合計65ベッドになった。(年内更に5床増床の予定)

● シャント用オベ室まもなく完成予定、シャントに院内で対応できるようになります。

● 10月23日 第1回健康講座開催予定『体の老化は血管の老化からー血管の老化を予防するには』 (講師:川崎幸病院大動脈センター/山本晋医師)

【在宅部門】

● 7月9日 健康教室「痴呆の理解」(講師:川崎幸クリニック院長/杉山孝博) 市民参加74名 ※新川崎在宅介護支援センターと幸クリニック共催

【アルファメディック】

● 9月30日 営業部、一部事務が本部1階へ移動

【オリーブ】

● 彩の国ボランティアの育成をする社会福祉協議会事業を受け入れ(参加:中学生3名、高校生2名)

● 第1回オリーブ主催 排泄委員会勉強会「排泄介助」・8/3 参加20名 ・8/10 参加14名 (講師:東京医科歯科大学老年病内科/浅野哲一先生)